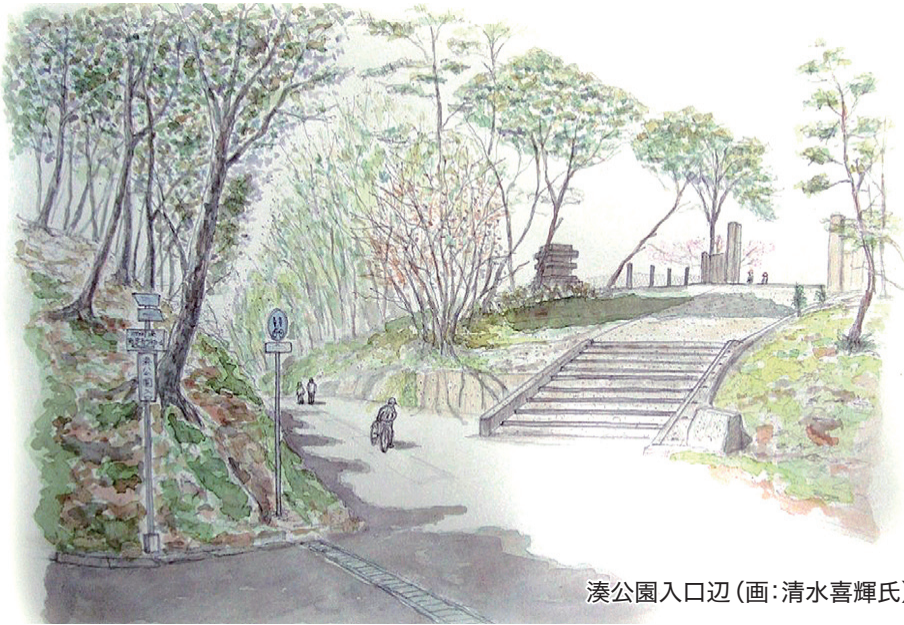




湊公園入口辺 (画:清水喜輝氏)



**ロータリー:
変化をもたらす**

WEEKLY REPORT

No.2919 2018年3月19日

事務所 ひたちなか市海門町二丁目 8-13 ひたちなか商工会議所那珂湊支所内
TEL.029(263)7811 例会日 毎週月曜日 12:30
FAX.029(263)6859 例会場 常陽銀行湊支店二階会議室
URL : <http://www.nakaminato-rc.com/>

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★ 点 鐘

磯崎久喜雄会長
ロータリーソング「奉仕の理想」
司会 卯野福弥 SAA

★ 幹 事 報 告

黒澤利勝幹事

★ 会 長 挨 拶

磯崎久喜雄会長



★ 出 席 報 告

榎木直行委員長

会 員 数	28名
出 席 者	15名
欠 席 者	13名
出席免除者	1名
メイクアップ	1名
出 席 率	59.2%

★ 委 員 会 報 告

クラブ管理運営委員会

川崎通夫委員長

3月11日(日) 地区の補助金セミナーに出席いたしました。2820地区は全55クラブ中54クラブが申請をしておりますが、報告書を提出したクラブは16クラブにとどまります(2018年3月現在)。ちなみに当クラブは2017年12月に提出済みであることをご報告いたします。

★ 卓 話

活動の原点

鹿志村吉信会員



今日の卓話にあたり、何をテーマにして話しようか迷いましたが私がロータリー活動を始とした社会奉仕活動や街づくり活動の原点となった青年会議所や商工会議所青年部時代に取り組んだ活動の中で一番印象に残っている事業について、お話したいと思います。

私が、那珂湊青年会議所の理事長を務めたのは青年会議所の定年4歳の一年前の39歳の時でした。

その年の重点事業の一つがスライド映画「新しき神々の出帆」でした。

この事業は、直前理事長であった梅原昭さんはじめ、当時の青年会議所会員で取り組んだ事業でした。このスライド映画は那珂湊市民会議発足に繋がりそして、マイシティなかみなど、貴賓閣復元研究会へと続いていきました。

その当時私はまだ那珂湊ロータリークラブへは入会していませんでしたが卓話の時間にスライド発表と説明をさせていただきました。

残念ですが今はスライドがどこにあるのか分からなくなってしまいました。

先日、この時の企画書が出てきましたので、制作の目的についてそしてスライド報告に用いたパンフレット等、お話致します。

企 画 書

那珂湊歴史創造計画

新しき神々の出帆

企画 那珂湊青年会議所

制作 社会計画研究所

【制作意図】

1983年もその幕をあげ、時代は大きく変わろうとしております。

そして那珂湊も今歴史の節目を迎えようとしております。だが、どんなに時代が変わろうとも、私達の原点は全地球上において、全日本列島において、この那珂湊という大地であります。

にもかかわらず、いま 那珂湊とは何か と

改めて問いかけられたとき、吾々は一体何と答えたらよいのであろうか。

たとえば、那珂湊の「ナカ」という発音は決して中という簡単な意味ではなく、アイヌ語の系統をひく神聖な名前であるかもしれません。そして、那珂川が育んだ那珂大地は日本列島においてどんな意味と役割をもつのか、それがわからないかぎり、那珂湊の将来のまちづくりはできないはずである。

那珂湊のまちを良く知らなければ、那珂湊を愛する気もおこらないし新しい街を創る行動も生まれません。

何とかしなければならぬ。このままでは那珂湊はまた歴史の節目において、間違った選択をするかもしれない。そういう気持ちが本プロジェクトを成立させた出発点である。

【スライド制作の意図】

1. 今、北の町、南の村からひとつのまちづくりの波が起こりつつあり、次第に日本国中に広がろうとしています。それは、自分たちの手で、自分たちのまちを見つめなおし、未来のあるべき姿を発見していこうとする活動です。
2. どのまちでもそのまちが長い間かけて育て上げてきた独自の歴史と風土があります。われわれのまちはどこからきてどこへ行こうとしているのか。それをもう一度見つめなおすことによって、未来の展望を開いていくことが、この活動の基本テーマであります。
3. そして、新しいまちづくりには新しい武器が必要であります。吾々は、それをスライドという映像手段に訴え、誰にも興味を持てる分かり易い形で、人々のまちづくりへの参加意識をかきたてようとしているわけです。
4. 映像を媒体として、みんなでまちづくりを考えていく、それは、苦しいけれども楽しい作業であります。費用も時間もかかりますが結果としては、それは補って余りあるものとなるでしょう。それは、一方において、人々を堅苦しいまちづくりから解放し、面白いまちづくりへと向かわせていくこととなります。
5. すでに、この活動はJCを母体として全国的に展開されており、大きな効果を上げつつあります。いずれにせよ、新しい時代は我々の手によって拓かれねばならず、一刻

の猶予も許されない時であると考えております。

6. ここにおいて(社)那珂湊青年会議所は1983年度の事業として「新しい神々の出帆(仮題)」の制作に取り組むことを決定し、ここに関係各位の絶大な協力をお願いする次第であります。

【制作内容】

制作内容は、大きく分類すると次の三つの分野に分けて考えていく必要がある。

- ① 問題発見段階(那珂湊の歴史を振り返り、また現在の那珂湊の抱える問題は何かを発見していくことである)
- ② 問題分析段階(那珂湊の現在抱えている問題を分析し、その解決の方向を見出す)
- ③ 問題解決段階(那珂湊のまちづくりの統合目標は何か、その具体的な方向とスケジュールとは何か)

那珂湊の場合は、まず、第一、第二段階に焦点をあわせ、第三段階の問題解決段階は今後のテーマとして残されるかもしれませんが、しかし、那珂湊のまちづくりの統合目標とは何か、そして、その統合目標にむかってどのようなまちづくりのスケジュールを立てていくべきか掴める予定であります。第三段階はその結果の上に立って、全市民が一丸となって取り組むべきテーマであり、今回はその点火段階として考えていくべきであろう。

【シナリオ構成の方向】

- ① 那珂湊はかつて日本でも有数の栄光の港であった。那珂湊から送りだされる物産交易のネットワークは東北、北海道のみならず、日本海沿岸にもびっしりと張りめぐらされていた。

そして水戸藩の財政は大きく那珂湊に依存しており、それを与えた湊商人の力も絶大なるものがあつたことは改めて述べるまでのこともない。

しかし、今日の那珂湊の姿をながめるとき、往時の繁栄の面影は失われ、そのエネルギーは失われてしまったかのようにみえるのである。

- ② それならば、那珂湊の歴史の中に於いて、何が那珂湊を繁栄させてきた原因であるか、何が那珂湊を衰退させてきた原因であるのかをまず的確にえぐりだしてみなければなら

ない。そして、それら歴史の節目に於いて、那珂湊の人々はどんな選択を行ってきたのか、どんな意思決定を下してきたのか、そのメカニズムを冷静に追求しなければならない。それは決して歴史上のことだけの問題ではないのである。いま、那珂湊が21世紀の扉をおしひらき、栄光をふたたび取り戻すことが出来るかどうかの重要な鍵をにぎる問題なのである。

- ③ 吾々はそれを次の諸問題から追及してみたい。

母なる那珂川とは何か、那珂川と久慈川にはさまれた那珂大地とは何か、それをもう一度、風土、経済、政治、文化などの点からほりおこしてみる。なぜならば、那珂大地共同体の建設なくして那珂湊の未来もまたありえないからである。

【父なる那珂湊とは何か】

- a. 中世からひらけ始めた那珂湊の常陸並びに日本列島において果たした役割を明らかにする。
- b. 水戸藩の商港として賑わいを極めた那珂湊、それはどんな方法で、どんな形でそのネットワークを全国に張っていったのか。
- c. 海上交通から陸上交通に転換したとき、どんな意思決定がなされたのか。(鉄道を拒否する港湾業者)
- d. 商港の衰退に代わって登場した漁港としての衣替えによって那珂湊は息を吹き返したが、その時誰がどんな風に意思決定を行ってきたのか。
- e. 沿岸200カイリ問題などによる漁業の頭うち、それに代わりタコなどの水産加工業の台頭はどういう選択をもたらしたのか、そして勝田の工業化に対応する湊の起死回生策は何か。
- f. そして、今、那珂湊、勝田、東海にわたる、水戸射爆場の跡地利用こそが、再生の鍵となっている。したがって、それに対して那珂湊はどういう意思決定を下すかが今後の最も重要なテーマとなる。

以上、歴史の節目を、横軸に政治・経済・交通(都市計画)文化・教育を置き、縦軸に古代・中世・近世・現代をおきながら総点検していく、それらの中から学びとったものを未来のまちづくりの中にどう生かしていくかがテーマとなる。

その取り組み方、取り組みの哲学、そして那珂湊の未来について徹底的に据り下げようとするのが、本プロジェクトのテーマである。

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」